|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　３・４年 | ゲーム　「タグラグビー」単元指導計画（案） | 運動場 |
| 単元目標 | 知識及び技能 | 基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができるようにする。 |
| 思考力、判断力、表現力等 | 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりすることができるようにする。考えたことを友達に伝えることができるようにする。 |
| 学びに向かう力、人間性等 | 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲良く運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたりすることができるようにする。場や用具の安全に気をつけたりしようとしている。 |
|  | 時間 | １ | ２ | ３ | ４ | ５ | ６ | ７ |
| 学習の流れ | ０５２０４５ |  | １．整列・あいさつ　　２．準備運動基礎感覚運動ボール投げ（一人・ペア・円パス））ケンケンパ、鬼ごっこ、しっぽとり、ねことねずみ、ボール運びおに、円タグ、１（２）対１タグラグ）３．めあての確認 |
| 【めあて】タグラグビーの学習の流れを確認しよう。 | 【めあて】パスの投げ方、捕り方を知り、パスを回してみよう。 | 【めあて】フェイントやおとりを使ってタグラグビーを楽しもう | 【めあて】タグラグビーのルールを知り、高めあおう。 | 【めあて】作戦を選んで、勝利を目指して競い合おう。 | 【めあて】タグラグビー大会に取り組もう。 |
| **４ オリエンテーション**・学習の進め方・１時間の流れ・場づくり・約束・チーム分け（５名）　ビブス、タグ着用・片付けについて**５　基礎感覚運動**・鬼ごっこ・しっぽとり・ジャンケンしっぽ取り・ボール慣れ**６　易しいタグラグビーにチャレンジしてみよう**場を確認しながら、チャレンジしみてよう。 | ４．活動①　ボールを使って色々な動きにチャレンジし、ボールに慣れることができるようにする。 | ４．活動①　パスをつないでシュートにチャレンジし、シュートの楽しさを味わうことができるようにする。※守りはなし。 | ４．活動①空いているスペースに走ることが得点につながることに気づかせ、ボールを持たない時にどう動いたらボールがもらえそうか、視点を与え考えさせる。 | ．活動①作戦例から選んで、話し合うことができるようにする。 | ４．活動①どのような作戦で攻めるのかを話し合い、チャレンジさせる。 |
| ５．きらりタイム…友だちやチームの動き等から、うまくできるコツや友だちの良い点等を全体で確認する。 |
| ６．活動②　パスを使ってミニゲームができるようにする。・パスゲーム・パスランゲーム※守りはおかずにまずは投げたりキャッチしたりを楽しみながら取り組めるようにする。【ボールの持ち方】ボールの先と指先を同じ向きにして、肘を曲げずにパス。 | ６．活動②守りを一人おいて、タグラグビーにチャレンジさせ、守りがいることでの違いを感じることができるようにする。 | ６．活動②お楽しみタグラグビー　ルールを覚えたり、苦手な子でも楽しめることを目的に、お楽しみタグラグビーを楽しむことができるようにする。　・兄弟チームが相手。　・得点はつけない　・守りの人数を少なくする。お楽しみタグラグビーの後には、個人やチームのよかったところを兄弟チームにアドバイスしてもらったり、チーム内で話し合ったりして考える。 | ６．活動②　作戦を選び、スペシャルアタックチャンス（得点２倍）で得点がとれるように、【話し合うことができるようにする。※規則（ルール）の工夫についても考えながらチャレンジできるようにする。 | ６．活動②　チームタイムの中でどのような作戦で攻めるのかを話し合い、チャレンジさせる。※スペシャルアタックチャンスの活用＝得点２倍単元の学習を振り返って、**※運動の楽しさや喜びを味わうために取り組んだことを伝え合うようにする**。 |
| ☆ふり返り（できるようになったこと、むずかしかったこと、楽しかったこと、友だちの良い所、次がんばりたいこと等。必要に応じて**実技と結びつけて発表させる**） |
| 評価規準 | 知・技 |  | ○ |  | ○ |  | ○ | 総括的評価 |
| 思判表 |  |  |  | ○ | ○ |  |
| 主体的 | 〇 |  | ○ |  |  | ○ |

　作成：体育科指導ＣＯ金城　光文書院「体育の学習４年　参照」